

# 国立大学図書館協会の活動における AI への対応について

令和 6 年 11 月 15 日

国立大学図書館協会理事会

## 1. 経緯

「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会は「『2030 デジタル・ライブラリー』推進に向けたロードマップ」(令和 6 年 7 月 1 日)の中で、今後数年以内に実現すべきこととして AI を活用した取り組みを示している。

一方、国立大学図書館協会においては、令和 5 年度に一部の地区協会が ChatGPT 等の生成 AI の試行や活用を行っている<sup>1</sup>が、協会全体としての AI への対応は検討していない。

第 71 回国立大学図書館協会総会(令和 6 年 7 月 9 日～10 日)において、出席者より AI について協会として取り組みが必要ではないかという提案がなされた。これにより、理事会への付託を受けて、具体的な対応を協議した。

## 2. 対応方針

### 1) 国立大学図書館協会ビジョンでの対応

- 次期ビジョン策定小委員会において、協会全体としての AI への対応を検討し、次期ビジョンに反映させる。
- 検討にあたっては「『2030 デジタル・ライブラリー』推進に向けたロードマップ」等を参照する。

### 2) AI 活用における課題把握および取り組み実施

- 委員会は、各々の事業内容における AI の課題について現状の把握を行う。
  - ◇ 把握した内容について、委員会横断的に情報の集約・共有が随時可能な体制を整える<sup>2</sup>。
  - ◇ 各委員会において、集約した情報に基づき今後の対応を検討する。
- 地区協会は、各々の事業内容に沿って AI の活用試行等の取り組みを進める。
  - ◇ 取り組みの成果は会員館に共有する。
- 委員会での検討結果および地区協会での事業成果は、協会の活動および次期ビジョン策定小委員会での検討に反映させる。

---

<sup>1</sup> 令和 5 年度に実施された事業には以下のものがある。(いずれも地区助成事業として実施)

- ・ 北海道地区協会 : ChatGPT を使い倒そう
- ・ 中国四国地区協会 : 一緒にさわって、考えよう！大学図書館の生成 AI 活用方法

各事業の報告書等は協会ウェブサイト(会員館限定ページ)で公開している。

<https://www.janul.jp/ja/members/promotion/promotion-2023>

<sup>2</sup> 情報の集約・共有にあたっては、Backlog 等のツールも活用する。